

# 丸山湿原群保全の会会報

(第 131 号)

発行日：2018 年 (H30) 6 月 19 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会  
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内  
TEL/Fax0797-91-1788  
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail：[maruyamashitugengun@gmail.com](mailto:maruyamashitugengun@gmail.com)

梅雨入りからもう 2 週間が過ぎようとしています。昨年は空梅雨に泣かされ、環境学習でも「悲しいほどのお天気」と言ったような気がします。百姓にとってこの時期の晴天続きは「良い天気」ではないと。今年は順調に雨が降り、水田の水管理やため池の水量の心配もせずに今のところ済んでいます。豪雨ではなく、適度な降雨が続くことを願ってやみません。早く梅雨が終わるという予報もあり、心配は尽きませんが…。情報が<sup>いまま</sup>ありすぎるのも心配の種ですね。

いずれにせよ、人の力では自然は支配できません。謙虚に生きていくしかありません。と言っていると地震が起きました。皆様お気を付けください。また、お見舞い申し上げます。

(今住 6 月 18 日作成)

## 活動報告 ★5 月 27 日 (日) 定期活動 9 名で活動

### 入口～竹筒ポスト平場のササ刈り、観察

高校生がやってきた！！前回紹介した高校生が加古川からやってまいりました。しかも保護者同伴で（お母様ご苦労様です）。アクセスが悪く車で送ってもらうそうです。次回の総会にも参加予定。今後が楽しみです。月 1 回は来たいということですが、無理は（お母さんが）しないようにしてほしいものです。しかし喜ばしい。代表職を譲りたいぐらいです。



左端が高校生 右の 2 人のどちらかがお母さん

さて作業ですが、前回の続き。お母さんも一緒に作業。途中ニホンアカガエルを見つけたり、モミジイチゴを味わったりとなかなか集中できません。私だけかな？

季節も天候もいいので 1 時間ほどで作業を切り上げ湿原へ。高校生の彼は初めてです。両生類セミナーの時はセミナーのみの参加。調査には来ていません。途中みんなのうんちくがやかましい。それにも耐え、昼過ぎまで付き合ってくれました。嫌がらんといてね！

### 【5 月 22 日に観察された動植物】

作業中に飛び出したニホンアカガエル。しっかり捕まりました。とてもきれいな個体です。少し色が薄いような気もします。春眠からお目覚めすぐなのか？よく似たタゴガエルやヤマアカガエル（これはめったにお目にかかれない）との見分け方は、裏の部分、口元からあごにかけて黒い汚れのような模様がないこと。この時期からは、とにかく食べて冬場の産卵活動のために太ることで必死なのではないでしょうか。しかしこの子はとても痩せているように見えました。やはりお目覚めしたばかりなのでしょう。



ニホンアカガエル



かなり成長したツチアケビ



ニホンアカガエル あごに模様がない

ツチアケビ（土木通）は順調に成長。開花して

るかと思いましたが 22 日時点では未開花。6 月 9 日には開花していました。後述します。最大 1m にもなるそうです。ツチアケビはナラタケに寄生したラン（蘭）です。当たり前ですが、ナラタケもナラ科やサクラ科の植物に寄生しています（キノコ）。しかも地中で菌糸を根のように伸ばし（菌糸束）別の木に寄生するとか。その菌糸束を根に呼び込み栄養を得ているのがツチアケビ。

ラン科の植物は基本的にラン菌と呼ばれる菌類（種によって色々）と共生しています。菌に糖を与え、代わりに発芽や成長に必要な栄養として窒素化合物をもらう。本当かどうかは知りませんが一般論です。これは共生。しかし、ツチアケビは全栄養をナラタケ（菌）からもらうのみ。まさしく全寄生。葉緑素を捨てた究極の高等植物だそうです。まさに菌従属栄養植物です。しかし何度も書きますがでかい！どれだけの養分をナラタケから得るのでしょうか。人が不思議な力を感じるのもうなずけます。（すべての情報は若干間違いがあるかもしれませんが各自ご確認を！）

寄生の世界は何度考えても複雑怪奇です。ハリガネムシ（針金虫）の話も頭をよぎります。ことわざでは「風が吹いたら桶屋が儲かる」に近い？全然違うか？前にも同じようなこと書いたような…進歩なしですな。人は寄生ではなく、共生でありたいですね。



ヤマボウシ 総苞片が美しい  
 れます。ジャムにもなるとか。何度か味見をしましたが、私はちょっと…好みです。ジャムはいいかも？

こちらはご存知ヤマボウシ（山法師）今年はとても多く咲いています。花は真ん中の緑の部分。これを坊主頭にたとえ、周りの白い総苞片（そうほうへん＝花を包み込む葉 萼だと思っていました）を頭巾？襟巻？に見立てた命名のようです。（都会の街路樹でピンクなどのよく似たハナミズキを見ますがこれはアメリカ産。アメリカヤマボウシとも呼ばれます。ちなみにハナミズキの総苞片は先が丸い。）西谷の街路樹にはこちらのヤマボウシが使われているようです。秋には赤い実がなり食べられます。

梅雨といえばアジサイ。コアジサイ（小紫陽花）です。林縁にたくさん咲いていました。名前の通り、小さいというか花だけのアジサイです。???



コアジサイ 萼（がく）なし いい香り  
 われる。雁皮紙。最澄が遣唐使として唐に渡った時のお土産に持参したものの一つとして記録あり。（他雁皮紙に関する逸話は色々ありそうです）

ガクアジサイはよく見ると思います。萼が色づくからガクアジサイ。（萼は花全体を支える役割を持つもの＝ヘタ「イチゴのヘタ」おー納得！）光を浴びてなんとも言えない美しさです。香りもとてもよく、家に飾ってもとてもいい花です。ちょっと水揚げが悪いかな？これは技術か？丸山で採るのは厳禁！近くのお山で。でも6月中旬で終わりかな？

他にも色々ありますが、あまり話題にしないガンピ（雁皮）

を紹介。兵庫に多い低木。繊維が強く和紙に使



ガンピ 名塩和紙の原料

ガンピを使う名塩紙はコウゾ（楮）ミツマタ（三椏）とともに、凝灰岩を泥にしてすきこむそうです。凝灰岩の色が和紙にも出て、いろんな色になります。しかも強靱で金沢の金箔打ち紙としても有名。金箔打ちに使用された後さらに、あぶらとり紙として販売されるというからスゴイ！ガンピは西谷からも多く名塩（すぐ隣の村）に販売されました。枝を折ると樹皮が切れずにするりと剥がれます。これを干して売っていたようです。条件的には凝灰岩（有馬層群）、ガンピ両方あったのだから西谷の産業として育ってもよかったですはずですが。越前から職人が技術をもって来なかったのでしょうか。しかし、武田尾の山を越えればすぐなのに残念。天領だったことも理由か？

ほかにも紐のようにも使われました。中々面白い木です。花もかわいい。



ハッチョウトンボ♀未成熟



トキソウ

定番のハッチョウトンボ（ハ丁蜻蛉）トキソウ（朱鷺草）は多く見られました。特にトキソウは第1 湿原に多く見られ、湿原内の又マガヤ刈りが功を奏しているのかもしれない。しかし水温が高いせい、花期は短いようです。画像のハッチョウトンボは、まだ未成熟の♀。目が透きとおって

いません。6月末が発生のピークか？8月いっぱいは見られます。

**環境学習** ★6月2日（土）西谷小学校3年生（オープンスクール 参観） 出前授業



今年はこのスライドからスタート。オオキンケイギク（大金鷄菊）です。武庫川流域圏ネットワークや宝塚自然保護協会に刺激を受けたか？

西谷にも増えてまいりました。子供たちに聞いてみると「ある！ある！」この場所もよく知っていました。「ばっさんやで！」「つかまるで！」（捕まることは、販売や悪質な栽培以外ありませんので。ご承知を。）の言葉にはよく反応していました。印象に残ればいいかな程度ですが…。



ちょっと飽きてる？時間無視の講師

特定外来種のオオキンケイギクを紹介  
 今年は PPT に動画（食虫植物の捕虫とイモリがシュレーゲルアオガエルの卵を食べるシーン）を加え、興味をより引くよう行いました。多少飽きる場面もあったようですが、講師が時間を忘れるほど夢中にやっていました。講師がですよ。3年生よ、よく我慢した。エライ！この学習がきっと次回のフィールド学習に生きてくるぞ。

**定期活動**

★6月9日（土）定期活動 14名で活動 晴 午後総会 16名の出席  
 定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去（最高気温26.7℃）

目的	市内	市外
丸山	12	19
ハイキング	11	4
その他	0	2

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度 (EC)	PH
入口	10:03	24.7℃		
視点場	10:44	26.7℃		
第3 湿原	10:28	【24.4℃】	33.2 μ S/cm	6.4
第1 湿原	10:59	【29.1℃】	29.2 μ S/cm	6.4
第2 湿原	11:42	【27.5℃】	36.3 μ S/cm	6.8

来場者数 計 48 人  
 （竹筒ポスト人数）

**【湿原・活動の様子】**

午後に総会を控え、大人数の参加。めでたいめでたい。久しぶりに湿原に来られた方もいて、柵の変化や、視点場の拡張、周囲雑木の整備に驚いておられました。

水温は前回同様第1 湿原・第2 湿原は気温より高い状態が続いています。梅雨に入り、水量が多いにも関わらずこの高さはなぜなのかよくわかりません。PHについては他資料を調べてみると、湧水湿原はほぼ中性が多いとか。温暖なため有機酸（腐食栄養）の発生が少なく酸性に傾きにくいそうです。ちょっと難しい。腐食栄養という言葉に、富栄養のようなイメージになりますからね。丸山湿原は間違いなく貧栄養ですからご心配なく。

やはり 2 週間経つと、ヤマボウシは総苞片（覚えたぞ！）を落とし、コアジサイもほとんど花



ササユリ



ツチアケビの花



第 4 湿原のトキソウ（わかりにくい？）

が終わっていました。その代わりと言ってはなんですが、ササユリ（笹百合）がお迎え。駐車場入ってすぐの沢の近くに 3 輪。数は多くありませんが、道々確認できます。花が咲くまでササと見分けが付きにくいので、こんなところにあっただのかといつも驚かされます。

前出のツチアケビは花（花と言ってもみんな花か？葉がないのだから…。茎はある！）を咲かせ立派な株立ちとなっていました。「これはいったい何なんだ！」と何度見ても驚きます。秋には立派なウインナーに。毎回同じことを…。そうそう、この菌従属栄養植物は、種を虫が運ぶことが最近分かってきたようです。種を食べた虫の糞です。ツチアケビは何が食べ、運ぶか知りませんが、ゴキブリやカマドウマが大きく貢献しているようです。しかし、糞と一緒に



株立ち開花中のツチアケビ

落とされた種も寄生する菌がなければ元も子もない結果に。数の戦略かな？ツチアケビが嫌いな割に記事が多い！話題性が高いから？ほんとは好きかも？

湿原には、シオヤトンボ、ハッチョウトンボに加え、オオシオカラトンボが豪快に産卵していました。第 1 湿原のトキソウはそろそろ終盤。代わりに第 4 湿原で多く見ることができました。柵のおかげか、今年は踏み込みの跡はほとんど確認されません。遠く見づらいことには不満はあると思いますが。視点場近くでも咲く環境に改変できたらと検討中です。ただし移植はしないつもりです。

**総会報告** 出席 16 名+委任 8 名 欠席 3 名 役員改選は、送付資料の通り候補者全員が承認されました。議案については、広報宣伝活動をグローバルな視点から行ってはとの提案あり。身近な人より外国の方のほうがその価値を認めてくれると。それをフィードバックすれば、とのことでした。FB でリンクし、海外からも HP・blog にアクセスはありますが、なかなか難しいのが現状です。何かお知恵がありましたらよろしくお願ひいたします。でも、ガイド頼まれたら英語ぐらひは…。最近便利な機械あるから大丈夫か？

セミナーの提案とガイド研修の予定も発表されました。今年度のセミナーは、「地学」と「昆虫」をテーマに。日程は調整中。ガイド研修については前回紹介した岡山で承認されました。

他、議案全て承認されました。ありがとうございました。

ガイド研修 日時 2018 年 7 月 28 日（土）場所 岡山県自然保護センター

近いうちに行程表と申込書を送付いたします。前回同様、集合は西谷と阪急山本で計画中。

集合時間は 7:00 と 7:30 弁当持参になる予定。格安ツアーですご参加を！

**小学校フィールド学習** ★6 月 13 日（水）はうまく天候に恵まれ実施しました。

報告については紙面の都合上、次回に回したいと思います。速報は blog に掲載しています。ぜひご覧ください。スマホでも PC でも見られます。「丸山湿原群保全の会」で検索するとヒット。会報も HP 左側、緑のタグからバックナンバーを含め閲覧できます。宣伝も含めよろしくお願ひいたします。

**改定リーフレット** 大幅に改訂いたしました。ガイド研修案内に同封いたします。ご活用を！

次回活動日 6 月 24 日（日）作業 7 月 14 日（土）定期調査 7 月 22 日（日）作業  
7 月 28 日（土）ガイド研修